



J. A. R. L. 宮城県支部報

第 7 号

社団法人 日本アマチュア無線連盟
宮 城 県 支 部

昭和 57 年 2 月 28 日 発 行
発行人 小 元 久仁夫 JA7AFP
編集人 小野寺 三 郎 JH7LDO

新 春 雑 感

宮城県監査指導委員長

JA7BE 関 谷 圭 一

「あけまして、おめでとうございますニナリマス、そんな事を言っております。今年もどうぞよろしくデス、そんな感じです。」

正月早々、145MHZ帯をワッチしておりますと賑かな交信が聞えて参りました。

そこで私も、どなたかの通信されている言葉をお借りして紙上で、冒頭新年のご挨拶を申し上げる次第です。近頃のアマチュア無線、特にVHF帯では、通常使用している日本語と若干相違した、このような言葉で通信することになったのでしょうか。

最近、特に電話による通信でルールも規定も変わったという話は聞いていないのですが、この種の言語が数多く耳に入りますと、旧い私には、どうも妙に引っかかるものがあります。

今の学校では、先生に質問された生徒様が「そんなこと言ってます、そんな感じです」と答え、先生が「ハイ結構にナリマスタ、よろしくデス、そんなこと言ってます。」の如き援業風景が展開されているのでしょうか。

責任のハッキリしない発言が、あまりにも多く聞えますと、或いは学校でも、社会でも、家庭でも……という懸念も持ちたくなくなるというものです。

他にも「ワッチになっていますか」「ワッチありますか」、とか「待機にナリマス」等々も耳に入ります。ワッチも待機も、私の感覚では、あるとかなるものではなく、するものと理解していましたが、不思議な現象です。

若し、これ等、アマチュア無線の、特にVHF帯で多く使われている言辭が正常であるとしたら、どうか博識の皆様、この辺の事情なり経緯なりを、お知らせ下さいませんか、何卒よろしくデス。(皮肉をこめてH)

さて気になる言葉は数々あれど、ですが、この件は、打ち切って、次にお尋ねしたいのは、運用上の問題です。

まず呼出しですが、呼ばれもしないのに「QRZ居りませんか」これが解りません。

私の勉強した範囲では、自局に対する呼出しが確実であって、相手が不確実な場合に、相手局符号の代りに「QRZ?」を使用して応答する、自局に対する呼出しが不確実である場合には確実に判明するまで応答しない、となっていた筈でしたが、何時から「CQ」の代用として使うような解釈が出て来たのでしょうか。

今も運用規則第26条を見ながら首をひねっています。「どなたか、私を呼ぶ局はありませんか」だって?。とんでもない、「QRZ」は決してそんな意味合いの略語ではないと理解していました、如何なものでしょう。

それから連続した呼出しですが、「JA7×△○こちらはJR7△□×」「……」応答なし、5秒も間隔をおかず「JA7×△○こちらはJR7△□×」「……」これが延々と15分から20分も続くのですから、全くヤレヤレです。

まあ何時迄も呼び続けて居れば、その努力と至誠が天に通じて応答が返って来ると思って居られるのかも知れませんが、何時間でも呼出しを継続すれば、相手局が、外出から家に帰り着き、無線機のスイッチを入れて、呼出されていることを知り、何時か、やがて連絡設定が出来ることもあるでしょうが、私の受けた指導では、応答が無ければ、時間をおかずに、ではなく、一定の時間をおいて呼出しを反復する、つまり数多の局が使用する周波数を専有せず、公平に能率的に。であったと思いますが如何ですか。運用規則第21条第2項には確か、出来る限りそうしなさい、とあった筈で

したが、特定の局に対しては変更になったものなのでしょうか。

次に気になるのは、すでに通信用周波数を確保しておかれての呼出し周波数における一方的な通報です。「CQ、こちらはJA7△○×、145、×△で待機します」これは、良し悪しは別として、私には引っかけります。

私も確に旧い人間になって融通が効かなくなったのでしょね。どうも二波を専有されているような感じがして仕方がないんです。

以前は呼出し周波数で連絡設定し、それから通信用周波数に移ったものですが……。

呼出し周波数以外では「CQ」を出せない訳でもない筈だし、待機しているのなら、その周波数で呼出しをなされた方が、大勢の皆さんが御使用になる貴重な周波数をより有効に能率的に使えそうに思えるのですけれど。

更に呼出しの放送を終えて、確保した(つもの)周波数に移ったら、すでに他局が使用していたりすると、混信となり、「私が確保していた波だから、どっかに移って呉れ」などと混乱したりする例も出ている様子です。

局の免許を受けますと、周波数も自分のものとして頂戴したという認識になるのでしょうか、時には、俗に言うケンカとやらにも発展している方々もお出でになりましたね。

私は公共の周波数を頂戴したのではなく、その周波数を公平、且つ能率的に使わせていただく権利を保有出来たものと理解していたのですが、間違っていたのでしょうか。

一生懸命に規定を守り、ルールを尊重して運用して参りましたが、それが誤りであるなら私も考え方を変えなければなりませんので何卒よろしく御指摘、御教導をお願い致します。

更に二、三点について皆様方の指導を受けなければ、と思うのは、時たま、所謂、無変調とやら申すキャリアのみを、しかも長時間発射されたり、或いはカーステレオなどを中継放送される局長さんが居られることです。

機器の耐久性のテストか、或いは放送業務としての免許を受けられたのか、その辺は定かではありませんが、法52条第6項の目的外通信の事項には当たらないという私の理解は正しくないのでしょうか。

また、時折り、非常に若々しい、年令で申し上げるなら、2~3才ぐらいの幼^コな児のアマチュア様が電波を出されるようで、バックノイズに母君やら父君の声まで聞えることがあります。

高価なおモチャを与えられ、しかも漸くアババとか、マンマとか物を言える位のお子様^コに免許まで取らせて電波を発射させて居られる理解ある親^コ様には敬服の至りです。

私の子育ての頃は、厳重な監視の下に絶対に子供に機械を触らせないよう気を使ったものでした。万一不測な事態になり、意識しない電波を発射した時などは、管理責任の重大さから冷汗を流して各局に謝罪をして廻るのが通例だったのですけれど……。

以上、VHF帯に限っての耳に入った事どもを申し上げましたが、巷の声では「OMが指導しないのが悪い」との由。それを聞いたOMが責任を感じて、親切に教えたところ「OM^コ面するな」。これではOMと言われる方々は救われな^コいと思います。

とかくこの世は、まますま^コならず、住みにくいものではあります。

従って私も、いい面^コの皮にならないようにと、指導を受ける立場を選び、どちらがどうなのか、と疑問に思う点についてお尋ね申し上げる訳で、どうか納得できるようにお教え下さいませ。

アマチュアもプロも法的には権利義務は同一だと思っています。アマチュアだから、いかげんな事をやっても許されるというものではない筈ですから、私は今後とも皆様の御指導を受けながら正確な運用を心掛ける所存です。

マナーは良識の問題かと存じます。もう一度、法令集を見なおし、誤りは直ちに修正しながら、今まで続けて来たハムを、なお一層充実していきたいものと、新春早々、考え込んでいるところです。

恐惶頓首

「仙台ブラインドハムクラブ」結成記念QSO

会長JE7CUL 赤間次男

仙台ブラインドH・C(JH7YUP 会長赤間次男JE7CUL、会員5名)は56年11月22日、名取市閑上海岸に移動して、クラブ結成記念QSOを行ないました。

会員5名は前日より閑上、松韻荘に宿泊しミーティングを行ない、翌日早朝より閑上海岸の砂丘に10メートル

のGPアンテナを立てて午前9時より2メートルバンドでオンエアしました。12時まで50局とのQSOを達成しました。予想外の成績にクラブ員一同大喜びで、QSOして頂きました各局に厚くお礼を申し上げます。

この記念QSOを行なうに際して東北福祉大学無線クラブの方々に多大の援助を頂きましたこと、クラブ員一同心から誌上をかりてお礼申し上げます。

1981年度支部事業を終えて

宮城県支部長 JA7AFP

小 元 久仁夫

支部報の第5号で80年度の事業報告を申し上げてから、早もう一年間が過ぎ去ってしまいました。1981年度は、県内の会員の皆様方の絶大な御支援と「くりこまクラブ」はじめ地域クラブの皆様方の御協力の下に、JARL本部より原会長、斉藤専務理事、梶田事務局長をお迎えして、初秋の栗駒高原で「第1回宮城県ハムの集い」を盛会に実施することができました。改めていろいろと御世話いただいた各局に衷心より厚く御礼を申し上げます。

さて年度当初の事業計画に「初級マイコン教室」のような新規事業の追加もございましたが、これまですべて順調に諸行事を実施して参りました。以下、今年度の事業を中心にしてこの1年間をふり返ってみたいと思います。

〔オスカー用ブリアンプ講習会〕 会費1,000円（安い！JAMSATの定価は2,000円ですが、支部長はじめJAMSAT会員が支部役員にいたるため割引してもらった）、5月3日10時からJARL東北地方事務局で実施15名が参加し、お昼頃までには組立を完了しました（JN 8月号参照）。RS衛星も打上げられ今頃参加者の皆さんニコニコ！

〔宮城通信コンテスト〕 6月12日～13日に実施結果はJN 10月号に発表し入賞者の表彰を支部大会で行ないました。今回はログ提出局が45局と少なくさみしいコンテストでした。参加した方はもっと多かったはずですがサマリーシートやログを提出された方が少なかったようです。

〔登録クラブ代表者会議〕 7月19日仙台市の共済会館で開催20名の代表者が出席し①支部大会提出議案②第1回「宮城県ハムの集い」③業務報告等について質疑応答が行なわれました。また、JN 5月号で発表したアワードについて市町村章の使用についてクレームがつきデザインを変更せざるを得なくなった点を説明申し上げました。また、9月実施予定の「第1回宮城県ハムの集い」について説明を申し上げ、登録クラブが一丸となって取り組むことを決定いたしました。

〔宮城県支部報発行〕 第6号を7月31日に3,000部発行し全支部会員宛発送しました。2,300名分の発送のため、支部役員総動員で5日間かかりました。

〔宮城県支部大会〕 第1回「宮城県ハムの集い」という名称で今年は栗駒町で実施しました。9月5日、6日の両日にわたり450名の方々が参加し、これまで

にない盛会でした。（JN 11月号参照）。

〔国試直前CW講習会〕 9月23日12名の方々がJARL事務局に集まり、JA7BE関谷OMと、JA7IW植松OMの御兩名のFBな御指導の下にCWの特訓を受け、お昼過ぎまで頑張りました。また、この講習会には山形県や福島県からも出席された方々がいました。

〔1.2Ghz 2.4Ghzトランスバーター組立講習会〕 10月10日JARL事務局に14名の方々が集まり、10時から製作を開始しました。早い人は2時間もかからないで完成させた方もいました。一昔前と違って基板にトランジスターや抵抗をとりつけることもなく、配線と若干の部品のとりつけで完成する——しかも一発で動作する——というFBな講習会でした（ものたりなかった方も多かったようですHi）。

〔第1回「ハムのための初級マイコン教室」〕 11月22日JARL事務局に9名の方々が集まり午前10時から夕方5時まで熱心な講習を受けました。今回はMZを使い1人1台のマイコンを渡されての講習会でした。次回はニーズがあればPCの講習会をと考えています。

〔クラブ代表者会議〕 暮も押し迫った12月20日鎌先温泉鈴木屋旅館で実施20名の方々が出席しました。前夜に忘年会を兼ねたFBなミーティングもあり来年もまたという声がありました。来年の事業計画と予算案について審議し、支部長連絡会の報告や各種の業務報告が行なわれました。

〔オール宮城コンテスト〕 新しい年になってすぐのコンテストが1月14日～15日にかけて実施されました。今年は参加局が多く（82局）、審査が大変でした。結果は近く支部報かJN 5月号に載ると思います。

〔宮城県支部報第7号発行〕 2月28日付で第7号の支部報を発行しました。残念ながら予算の関係で今回の分は会員の皆様方すべてにお送りできなくなりました。次号は支部大会の御案内を一諸にお届けする努力をいたします。

以上が2月現在までの今年度の経過です。このような事業を実施するために毎月1回支部役員会を開催し、実施計画について話し合い担当者と実行計画を決定して参りました。あと一つ、3月21日の「国試直前CW講習会」で今年度の事業もすべて終了になります。

2年前に宮城県支部長の職務をお引受けしてから、い

ろんな行事を実施して参りました。会員の皆様方の御協力と、支部役員の皆さんの献身的なボランティア精神によってこの2年間、無事にいろんな事業を予定通り実施できました。あらためて会員の皆様と支部役員の方々の御協力と御支援に厚く御礼を申し上げます。

さて、昭和57年度もほぼ前年並み（若干事業を減らしましたが）の事業計画を立案し、先日地方本部長を通じ連盟本部に提出いたしました（下記）。昨年以上に

多数の会員の皆様が仲間を誘っていろんな行事に参加されますことをお願い申し上げます。

まもなく（多分この支部報が皆様のお手許に届く頃には）レピーターも免許になり、また今夏には待望のPhaseIIIも打上げられて、Satellite WACも夢でなくなりそうです。今年の夏からUHFは昨年以上に賑やかになりそうです。宮城県にも是非レピーターを！会員の皆様と一諸にレピーター免許を1つの目標に今年も頑張ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

昭和56年度予算収・支中間報告および昭和57年度予算案

収 入	項 目		決算報告 (56.12.31現在)	昭和57年度予算
	前年度繰越	年度繰越	13,639 (円)	(円)
入	支 部 大 会 費	支 部 大 会 費	780,000	823,000
	支 部 大 議 会 費	支 部 大 議 会 費	86,820	7,000
	支 部 大 議 物 費	支 部 大 議 物 費	880,459	830,000
支 出	支 部 大 議 物 費	支 部 大 議 物 費	228,980	250,000
	支 部 大 議 物 費	支 部 大 議 物 費	94,804	170,000
	支 部 大 議 物 費	支 部 大 議 物 費	111,673	93,000
	支 部 大 議 物 費	支 部 大 議 物 費	14,420	10,000
	支 部 大 議 物 費	支 部 大 議 物 費	7,000	5,000
	支 部 大 議 物 費	支 部 大 議 物 費	221,900	260,000
	支 部 大 議 物 費	支 部 大 議 物 費	8,000	2,000
	支 部 大 議 物 費	支 部 大 議 物 費		5,000
	支 部 大 議 物 費	支 部 大 議 物 費		3,000
	支 部 大 議 物 費	支 部 大 議 物 費	686,777	830,000
次 期 繰 越		193,682	0	

昭和56年度 事業報告

- 56. 5. 3 オスカー用プリアンプ組立講習会
 - 6. 12 宮城通信コンテスト
 - 7. 19 クラブ代表者会議
 - 7. 25 宮城県支部報 No.6 発行
 - 9. 5~6 第1回宮城県ハムの集い
(いこいの村栗駒)
 - 9. 23 国試直前CW講習会
 - 10. 10 1.2GHZ トランスバーター組立講習会
 - 11. 3 JA7RL公開運用
 - 11. 22 第1回「ハムのための初級マイコン教室」
 - 12. 20 クラブ代表者会議支部役員会忘年会
 - 57. 1. 14~15 オール宮城コンテスト
 - 2. 28 支部報 No.7 発行
 - 3. 21 国試直前CW講習会
- (支部役員会は毎月第4月曜日PM6:00 ~ JARL事務局にて実施)

昭和57年度 事業計画

- 57. 6. 12~13 宮城通信訓練コンテスト
 - 7. 18 宮城県クラブ代表者会議
 - 9. 30 宮城県支部報第8号発行
 - 10. 23~24 第2回宮城県ハムの集い(亶理町)
 - 11. 14 1.2及2.4GHZ トランスバーター 組立講習会
 - 12. 19 宮城県クラブ代表者会議
 - 58. 1. 15~16 オール宮城コンテスト
 - 3. 21 国試直前CW講習会
- (支部役員会は毎月第4月曜日PM6:00 ~ JARL事務局にて行なう)

手 作 り の 支 部 大 会

東北地方本部監事
JA7CC 高橋靖英

CQ誌を開くとグラビア頁には毎号楽しい催物の記事が一杯掲載されています。

催物の種類の多いことに驚かされます。男女別があるかと思えば、年齢別、職業別、学校別、地域別、周波数別、電波型式別等、数え上げればきりがありません。日本人の祭り好きと云われる所以がここらにある様です。

日本人の祭り好きは勿論ですが、祭り作りも又定評のある所です。東京オリンピックから始まり、万国博、沖縄海洋博、神戸のポートピアと世界の人々を集めた祭りはご存知の通りです。

しかし、みんなで作り、作ったみんなで参加する祭りとなると先の祭りとはちょっと違って来る様です。

では、みんなが作り、作ったみんなで参加する祭りとはどんな祭りでしょうか、先日栗駒いこの村で開催された「宮城県ハムの集い」(宮城県支部大会)が、まさにみんなで作り、作ったみんなが参加した祭りの様な気がします。JARLの組織改正後、支部が県単回になって以来、仙台での開催がしばらく続きました。今回栗駒で開催するという事について、支部長以下役員の決定を促したのは、栗駒クラブのみなさまの熱意によるものだと思います。初めての地方開催という事で、難しい事も多々あった事と思いますが、関係者の努力により実現にこぎつけたようです。

前夜祭は、地元有志による華やかな神楽の舞で幕が開き次々と続く楽しい趣向一杯の催物も、時間のたつのが早く、あっという間に終わった感じがしました。前夜祭のメインイベントは何と云ってもアイボールQSO、あちらこちらに楽しそうな輪が出来上り、夜のふ

けるのも忘れたかの様にいつまでも続いていました。翌朝早くから始まった宝さがしには、日頃腰の重い面々もついさそわれて大勢が参加しました。その後お祭り広場ではじまった行事の中で、子供達は初めて見る餅つきが大変めずらしそうで、又、ジャンクと一緒に大根や川魚を売っているコーナーも地方ならではの光景でした。どのコーナーにも家族連れが一杯になっていた様です。

午後からのFOXハンティングには、ラジオ受信機を持たない人までが走り廻り、そうしている内に楽しい一日もあっという間に過ぎてしまい、夕暮頃には、名残惜しげに帰って行く人々、そしてどの顔も十分満足げで、次回の祭りを期待しているかの様でした。

催物の運営に努力された、地元栗駒クラブの方々のご苦労も大変でしたが、多勢の人々が参加し、且、全員が楽しんでくれた事でその苦労も十分報われた事と思います。運営に努力された栗駒クラブの方々に敬意を表す次第です。

今回の「宮城県ハムの集い」の特色は、参加した人々自身で催物を作り上げ、その催物に全員が参加した事にあると思います。

まさに手作りそのものです。手作りの祭りは何といっても作った人々自身が参加する事により出来上り、手作りの祭りだからこそ、又、みんなが楽しく参加出来るのだと思います。

さて、次回57年のハムの集いは、亙理クラブのみなさまがお世話する事に決定した様です。より多くの人々が参加出来る催物である様、次回亙理で開催の「宮城県ハムの集い」に期待したいと思います。

第4回オール宮城コンテストを顧みて コンテスト委員長JA7DSO 志摩茂郎

去る1月14、15日に行われた第4回オール宮城コンテストには、多数の局の参加を頂き、無事盛況に終了することが出来ましたことは、大変うれしく思います。参加された局はもとよりご協力を下さった方々にも心から深く感謝申し上げます。

当コンテストには、回を重ねる度に前回頂いた各局のご意見、ご要望を出来る限り取り入れ、尚一層よりよいものにしようと努力してきました。周波数帯につ

いても他県の局に出来るだけ迷惑をかけないようにと、21MHz帯以上にし、時間帯並びにコンテストルールにも色々とお気を配ったつもりであります。発足当時と異なり、若いコールサインの局にも多数参加して頂き、内容的にもローカル局らしいなごやかさが感じられ、またOMの方々とYMの方々ととの意志の疎通も計ることが出来たのではないかと考えています。

古くから、ハムの世界でも和の精神が大切であるとよく言われています。日頃、特定の相手としかQSOをしたことのない局もこの機会を通じて、多くの局と

QSOを行い広く和を求めることができたのではないかと思います。いかなるコンテストでも、得点を争うだけではなく、友の消息を知ったり、各局との心の融和を計ることも合わせて忘れてはならないことではな

いかと思います。

尚、当コンテストを通じて色々とお気付きの点がありましたら、その点を忌憚なくお聞かせ下さいませう重ねてお願い申し上げます。

マイコン講習会に参加して

JA7IRP 石原 一 雄(仙台市)

10月のある日、ハムの先輩の某氏よりハムを対象としたマイコン入門教室があるので、ぜひ参加してみたいという話がありました。

ちょうどそのころ私はパソコンに興味を持ち始めたころであり、大学時代の旧友のF君をさそい出し、二人で参加することとなりました。

大学の電気は出たものの、十年一昔で、当時コンピューターの講座はあったものの、コンピューターは我々の手にまだ遠く、大会社や国立の大学でしか使用していない時代で、あまり講座にも出席せずじまいに終わりました。

しかし、昨今、マイクロコンピューターは、電卓を始めインベーダーゲーム、家電製品など身近なものとなりました。新聞でも、マイコン、パソコン、オフコン(きつねの泣き声ではないが)と宣伝し、日本のLSI産業のはなばなしさを報じています。私も時代の流れに乗ろうと思ったことと、30才までしか、ソフトウェアを柔軟に組めないということを破ろうと思ったからです。

56年11月22日寒い中JARL東北事務局に県内各地より多くの方々が集まっていました。なかには女性もおいででした。私は、この講習を受ける前に一度さわったことがあるだけで、ほんとうのマイコンのおもしろ

み、実用性など知るよしもありませんでした。

講師より、コンピューターの原理に始まり、実際にマイコン操作の仕方、プログラムの組み方など初めてマイコンに触れる人でも興味を持てるような講習をしていただきました。コンピューターは自分ではなにもできないが、いろいろな命令を与え、また、順序正しく実行させることによって、価値あるものになるということがわかりました。単純な計算をさせるだけなら、電卓を使った方が手っ取り早く、しかし、こみいった計算や集計は手順(プログラム)をふむことにより、無限大の可能性を引き出せることに感心しました。

今回はMZ-80Bを使って「Basic」原語による、プログラムの組方や操作法、プログラムやデータをカセットテープに記録しました。それをコンピューターにフィードバックする方法を学ぶ中に時間はあっという間に過ぎてしまいました。

今回参加してみて、ますます身近になるマイコンを見るに当たり、ぜひ自分で早く操作法を学び、ホビーにビジネスに役立たせたいと思った次第です。また、多くのハムがこのような講習に参加し、知識を修得されんことを望むところです。

最後に、今回設営にあたられましたハム先輩諸兄並びにメーカーの皆様に、有意義な時間を作っていただいたことに対し、お礼申し上げます。

昭和57年度オール宮城コンテスト結果(*は入賞局)

21MHz		14.4MHz		430MHz	
1. * JR7MPT	1003 (10)	1. * JR7RZL	5688 (10)	1. * JR7KTG	378 (10)
2. * JR7NVR	962 (10)	2. * JE7EJD	4640 (10)	2. JH7AMM	190
3. * JR7TKX	868 (10)	3. * JH7ILI/?	4794 (10)	失格局(御勤不備)	JH7OGY
4. JR7ASO	737	4. JR7VKD	3608		
5. JE7REG	540	5. JE7HMZ	3472		
6. JH7BMC	451	6. JR7KSV	3193		
7. JE7BITZ	441	7. JR7GUK	2616		
8. JH7QLR	413	8. JE7GCV	2600		
9. JR7FMH	396	9. JR7PHF	2720		
10. JE7IEF	344	10. JR7XHS	2464		
11. JR7RGO	259	11. JH7THS	2392		
12. JR7UIB	200	12. JR7SLK/?	2360		
13. JR7CUX	174	13. JE7AGO	2262		
14. JR7HYK	150	14. JR7THI	2225		
15. JE7CUZ	144	15. JA7DNO	2050		
16. JR7VKB	36				
17. JE7IKZ	9				

支 部 登 録 ク ラ ブ 紹 介

◎ 亘理アマチュア無線クラブ(JA7YZR)

JA7SIA 渡 部 恵 治

呼出符号—JA7YZR、待望のクラブCALLが免許されたのは昭和49年5月28日の事でした。免許にさかのぼる事約一年前(昭和48年5月頃)に、亘理町逢隈地区のローカル数局がJA7QMBを会長に結成した亘理77アマチュア無線クラブが現在の亘理アマチュア無線クラブの前身でした。このクラブの77とは、7エリアでクラブ員7名のクラブであるという所から名付けられたものでした。

結成当初の活動は、夏のフィールドデーコンテストをメインに、毎週土曜日に51.77MHzでオンエアミーティングを行うなど、無線という通信手段を最大限に生かしていました。

しかしクラブ員の増加に伴いクラブ運営が複雑化し、クラブ員それぞれがバラバラになり活動が停滞し、一時40名をも数えたクラブ員の数が5名にまで減少するなど、鳴かず飛ばすの時代が続きました。

その後クラブ員が少しずつ亘理町内に拡がっていったのを機会に、クラブ名を亘理アマチュア無線クラブに改め、昭和55年には06-1-11のJARL登録クラブとなり、活動もしだいに活発になりました。

現在の会長は、JA7NFZで2代目です。クラブ員は30名余りで、この中には4組の家族会員が含まれています。

クラブの年間行事は、まず、4月の通常総会でその年一年の計画を立てる事から始まります。4月中旬には花見会を、5月から7月にかけては8月のフィールドデーコンテストの参加準備を行い、10月にはクラブ特製のいも煮会、12月には忘年会を行います。1月から3月にかけてはクラブ員の技術向上を目標に、製作講習会を行っています。

これら毎年恒例の行事のほかに、55年11月には、クラブ初の行事として、初めてのモービルFOXハンティングを開催し、参加いただいた各局には、クラブ特製のいも煮もあわせて味わっていただき、好評を博しました。

さらに、56年9月には、「いこいの村栗駒」で行なわれた、第1回「宮城県ハムの集い」に例のクラブ特製のいも煮のサービスで参加し、集った各局の空腹を

いやすのに役立つなど、ここ2,3年の活動はめざましいものがあります。その上、今年は第2回「宮城県ハムの集い」の開催をお手伝いする事になり会長以下、クラブ員一同、なお一層頑張っているつもりです。まだまだ未熟なクラブではありますが、全力を尽してお手伝いする覚悟です。

グラウンドで県内各局とEye Ballする時を楽しみにしております。今後共どうぞよろしくお願い致します。

◎ 石巻アマチュア無線クラブ(JA7YBI)

JA7DSO 志 摩 茂 郎

当クラブは、昭和36年4月に産声を上げ、昭和38年5月18日付でJA7YBIのコールサインが付与され現在に至っています。また、JA7FCを会長に会員は60名以上に達し、目下、増加の一途をたどっています。地域的には、石巻市を中心に、桃生郡、牡鹿郡を含み日本三景のひとつ松島ローカルにまで及んでいます。

最近、若い年代層が増え、活動も活発になり、行事も毎月実施しています。特に、若いエネルギーを原動力に活動も堅実的になってきており、今が躍進の時機といった所です。

昨年は、6月に八木・宇田アンテナ石巻湾実験50周年を記念して発祥の地である金華山へ移動し、全国火腿仲間呼びかけたことが記憶に新しい所です。また、9月には、クラブ員以外の参加局も加え、第1回モービルハンティングが市内全域にわたって繰り広げられ、大変好評を博し、地域の話の話題のひとつになりました。

今年は、1月10日の通常総会並びに新年賀会で幕を開け、活動のスタートをきりました。今年の行事の中から主なものを紹介してみますと3月技術講習会、4月お花見、5月第3回ソフトボール大会、6月第5回フックハンティング、8月海水浴、9月第2回モービルハンティング、10月いも煮会、11月第9回ボウリング大会並び忘年会となっています。その他に、JARL主催の各種コンテストにも積極的に参加し、中には、コンテストの度に、発電機をかかえて山に移動する局も多くなってきており、なかなか活発です。

このように、クラブ員一同、来年のJA7YBIの開局20周年記念事業に向けて、一丸となって力強く、和のもとに輪を広げていこうと頑張っているのです、各局のご協力とご支援を心からお願いしたい次第です。

◎ ブルースカイ仙台クラブ(JA7ZVJ)

JH7WXX 芝原 栄一

宮城支部各局様、新年おめでとうございます。私始め仲間同士が活躍しているJA7ZVJ(ブルースカイ仙台HAMクラブ)通称145.74MHZグループとも呼ばれていますが、昨年同様本年度もよろしく願致します。JA7ZVJは昨年、 $\frac{1}{1}$ エアーモービルから始まり、 $\frac{3}{22}$ 製作講習会、 $\frac{4}{5}$ 潮干狩、 $\frac{4}{26}$ お花見、 $\frac{6}{28}$ サクランボ刈り、 $\frac{8}{1}$ 第24回フィールド参加、 $\frac{9}{6}$ 第1回宮城県HAMの集い参加、 $\frac{9}{20}$ 芋煮会、 $\frac{10}{10}$ 第6回羽黒交流会、 $\frac{12}{5}$ 忘年会と色々な催し物をして参りました。昭和57年度も各クラブと交流しVサインでガッツに行こうと思っています。

私達は、年度始めに理事、監事会を開き、各計画を協議しグループ家族の協力を得て実行し、第1回目の計画をやるに際し1月前に事前検討をしてから実行に移ります。イイ幹事?ワルイ幹事!後からイヤナ幹事等と言われない為にも計画事前検討会は、もめるものです。各グループ共協力実行に移すに致っては各局都合も有り、なかなか大変です。でもどういふ訳か実行の段階になると各局は多数を参加させ、理事監事のテーブルは無くなります。それは大変FBな事です。7.17.27と月3回20時にロールコールをキー局は廻り当番にてインフォメーションしております。昨年度はJA3579、パイバチロッキにより、仙台空港より15回フライトしました。実行に致りましては、WXがBFで飛べない時もありました。SENDA1-A1RPORT-CO NTRO1-JA3579-F1Y目的地仙台上空……SENDA1-CONTRO1-JA3579離陸準備OK……SENDA1-CONTRO1-GST10:00許可するJA3579了解……気象報告検討。嵐。乱気流無し、正に上天気である。スロットルレバー廻すと、エンジンは咆哮した。滑走した後、パイバチロッキは速度120kmでSENDA1-A1RPORTを離陸した。名取上空300フィード速度200kmベアリングコンパス360°、空高くあがると明るいもので、翼のアルミが太陽に照らされ、渋い色を出す。左側に蔵王連峰右側に太平洋が弓なりに見え眼下には仙台が箱庭の様にキラキラ輝いて杜都を取囲む緑と調和してFBです。ハローCQ、JA7ZVJ仙台上空エアーモービル145.74MHZにQSY……QRZこちらはJA7ZVJブルースカイ仙台HAMクラブ、仙台上空1.500m JA3579エアーモービルから記念QSL発行どうぞと言うがごとし、改造ミツタに各局からのRFがガンガン入感してきます。昨年はYBのフライトが主でしたが本年度からは、ウグイス嬢がフライト予定になっておりますので各局様、聞こえておりましたら是非お声掛け下さい。各局の御健康と御活躍をお祈り致します。(57.1.7)



2 m の マ ナ ー と は

JE7EYA 鈴木 衛(登米郡)

最近2mのマナーのみだれが特に目立つようである。アマチュア無線とは何んであるか根本をお考えいただきたい、とともに大きなハートで対処してほしい。少しのまちがいなどでもショートで突然わり込みコールも言わないで相手を罵倒したり、特にYLと交信していると無変調で妨害電波を出す局がいる。自分が妨害された場合を考えたとしてもそんな事は出来ないのではないだろうか。

まちがいを注意してあげるのならわかるが違反行為で相手をきずつけるのはやめてもらいたい。

あくまでも、さわやかに、すがすがしくQSO出来る事、それがアマチュア無線だと思います。では、お空で、またあいましょう。



◇ 「東北放送開局30周年記念賞」のおしらせ

57. 6. 1 ~ 57. 8. 31間に宮城県内の30局と交信(SWLは受信し)QSLを得る、周波数・モードは自由。モービルとの交信、受信は不可。書類:アワード申請書(JARL様式)ログ写し、JARL会員2名のQSL所持証明・手数料無料・郵送に限る。期限57.12.31

提出先:〒980-91 仙台中央郵便局私書箱166号東北放送アマチュア無線クラブ(JA7YFA)(TBCアワード申請書在中)と朱書 問い合わせ:JA7YFA(0222)29-1111内線252(桐原)

◇ 「第2回宮城県HAMの集い」のおしらせ標記の催物が10月23日(土)・24日(日)に亘理町で開催の予定です。詳細は次号に発表します。

◇ 「第24回JARL通常総会」のおしらせ

5月23日(日)水戸市で行なわれる通常総会に欠席の会員は委任状をおわずれなく連盟本部宛御送り下さい。

◇ 次回支部報(第8号)は、57.9.30発行の予定です。多数の原稿を御待ちしております。 [係]